

# 古宇利漁港（沖縄県今帰仁村）

## ●地域の特徴

古宇利漁港が立地する今帰仁村は、沖縄県のなかでも条件不利とされる北部地域に位置している。本漁港の周辺海域はサンゴ礁の発達によって好漁場になっており、網漁業、釣漁業、潜水器漁業等が営まれ、モズク養殖も盛んにおこなわれている。

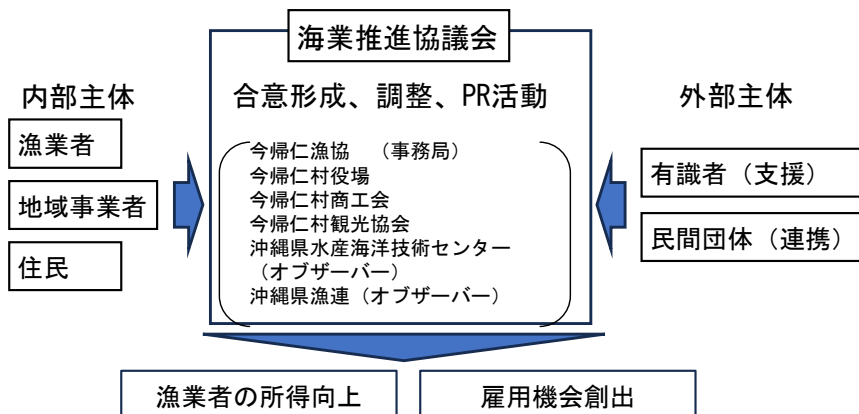
## ●取組に至った背景

今帰仁漁協では古宇利島の漁業者により主に修学旅行生を対象としたハーリー体験を提供し、交流促進に取り組んでいる。本取組では、ハーリー体験や、漁業体験プログラムの参加機会を提供することにより、来訪者の増加を図ることを目的とする。これらの管理・運営を展開し、推進するため、漁港施設等活用事業を活用することに至った。

## ●取組の概要

- ・活用類型：体験
- ・立地特性：地方・過疎地
- ・施設の状況：遊休用地を活用・新たな施設を整備
- ・活用施設：漁港施設用地
- ・取組内容：漁業体験プログラムの管理・運営  
ハーリー体験事業や上記漁業体験プログラムの参加者等が利用できるシャワー・更衣施設等の設置及び管理・運営

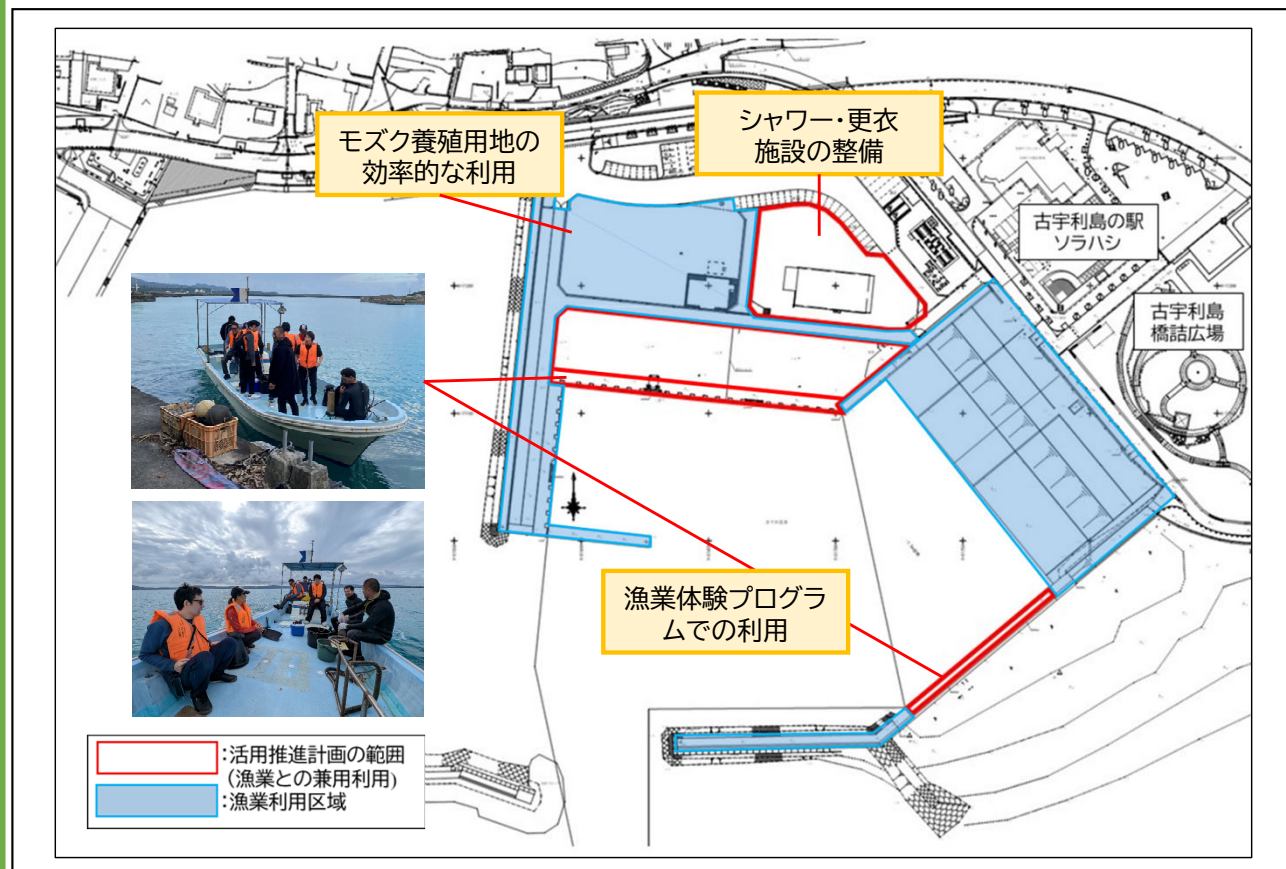
## ●実施体制



## ●活用推進計画の概要

- ・計画策定（予定）日：令和8年度中（予定）
- ・実施（予定）期間：30年間（予定）
- ・漁港管理者：今帰仁村
- ・事業目的：交流促進
- ・事業概要：ハーリー体験や漁業体験プログラムの参加機会を提供することで、古宇利漁港の来訪者の増加を図り、漁協経営基盤の強化、漁業者等の所得向上と雇用機会の確保、地域内の交流人材の確保と交流人口の拡大を目指す。

## 位置図



## 期待される成果・効果（交流促進事業）

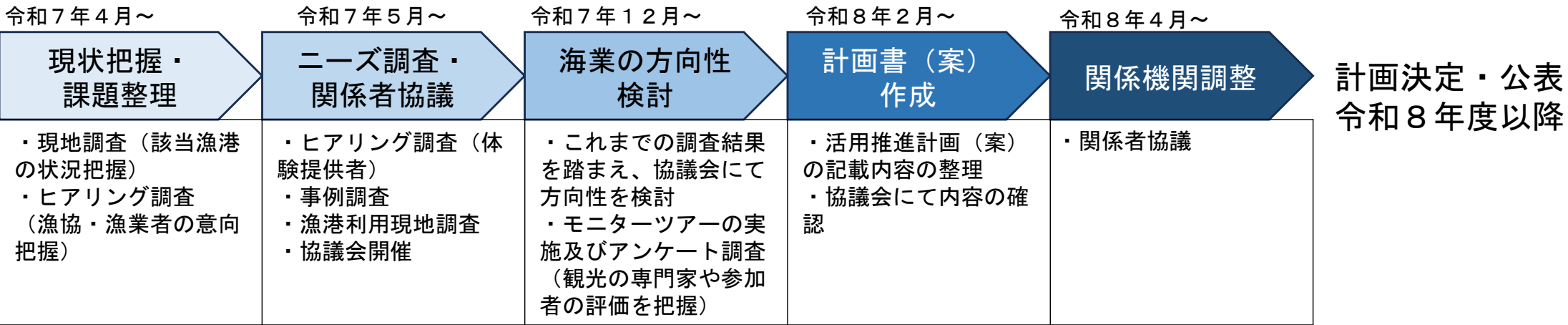
- （定量的効果）
- ・シャワー施設年間利用（想定）：10,000人（体験＋海水浴客）×300円＝3,000,000円
- （定性的効果）
- ・観光地として魅力の増大、賑わいの創出

# 古宇利漁港（沖縄県今帰仁村）

## ●参考情報

- ・水産庁 漁港施設等活用事業の推進に関する手引き（案）
- ・先行実施されている漁港における「活用推進計画」や実践内容

## ●活用推進計画策定のプロセス



## ●合意形成・関係者調整

- ・協議会には、今帰仁漁協、今帰仁村役場、今帰仁村商工会、今帰仁村観光協会、沖縄県水産海洋技術センター、沖縄県漁連など幅広い主体が参画した。
- ・令和7年度に3回（7月・10月・2月）の古宇利漁港海業推進協議会（7月は準備会）を開催し、継続的な意見交換を実施した。
- ・体験プログラムでは、今帰仁漁協・漁業者と今帰仁村観光協会が連携し、相互の役割分担を明確にすることで、充実した内容のプログラムを検討した。
- ・協議会では、漁港利用者へのヒアリング調査や体験プログラムのモニターツアーの試行を踏まえた漁港利用のゾーニング案を作成し、関係者間の利害調整を進めた。

## ●課題（原因分析を含む）及び今後の対応方針

- 本業務にて協議会を開催し、漁港施設等活用推進計画（案）を確認した。今後は、以下に示す取り組みを継続して行う必要がある。
- ・漁協や観光協会と連携した需要確保および需給マネジメント
  - ・体験事業を販売につなげるための情報発信と販売促進
  - ・施設整備に向けた施設規模・配置等の精査と、引き続きの整備・運営主体の検討

## ●他の漁港管理者へのアドバイス

- ・漁港用地の活用に向け、管理者と漁協との情報共有を密にし、参考事例の視察を合同で実施するなど、整備イメージを関係者で共有することが重要。
- ・観光施設やビーチに隣接する古宇利漁港では、特に漁港内の適正な利用や景観への配慮が求められる。漁港用地の活用に向け、漁業者とのコミュニケーションを図り、用地や施設の共同利用化など漁業活動の効率化にも合わせて取り組むことが重要。